

「脱・しくじりプレゼン ～言いたいことを言うと伝わらない～」

この度、2018年10月1日に発刊された八幡紘史先生の編著「脱・しくじりプレゼンー言いたいことを言うと伝わらない」を書評する機会をいただいた。本書はまさに“医療とプレゼンテーション”の繋がり的重要性を“例えば”を使い医療者の目線でわかりやすく描いた一冊だと思う。医療現場には多種多様のプレゼンテーションの機会がある。臨床における患者-医師関係の構築、リスクマネージメント、看護師・コメディカルとの情報伝達はもちろんであるが、学会、研究会、そして日々のカンファレンスはまさに医療とプレゼンテーションが切っても切り離されない瞬間である。プレゼンテーション・コミュニケーションの良し悪しが自分の印象を変え、安全性を担保し、そして多くの問題を回避することに繋がる。多くの医療現場ではこれらを慣習的・経験的に学び、実践し、それらを周りから評価されるということが繰り返されているように思う。しかし、それらに統一性や一貫性はなく、それぞれが違ったやり方・考え方でプレゼンテーションが行われているのが現実であろう。簡単に言えば、「話し上手な人は上手だ」ということである。それもそのはずである。我々医師や医療現場にいるスタッフがプレゼンテーション・コミュニケーション技術を系統的に学ぶ機会は無いに等しい。しかし、本書に描かれているようにプレゼンテーションには学ぶべき技術がある。これはあくまでも基本的な技術である。誰もがいきなり膀胱を摘出したり、腎臓を摘出したりはできない。皆、本やビデオをみて勉強し、基本技術を練習し手術を執刀できるようにトレーニングしていく。この外科的技術獲得と同じようにプレゼンテーションにも学ぶべき技術がある。この基本を学び、その上にオリジナリティを高めることで新しい技術が生まれてくるものと考えている。

そこのあなたもぜひ本書を手に取り、読んで感じて欲しい。全ては“知ることから始める”のだから。



井上 貴昭 (Takaaki Inoue, M.D., Ph.D)

国際プレゼンテーション協会 個人正会員

現・関西医科大学腎泌尿器外科学講座 講師

(専門) 尿路内視鏡治療、尿路結石治療、minimum invasive surgery,
医療プレゼンテーション技術

(資格) 日本泌尿器科学会専門・指導医, 日本内視鏡外科腹腔鏡技術認定医, 日本泌尿器科腹腔鏡技術認定医, 日本癌治療認定医

- ・医療系企業、医療系学会でプレゼンテーション技術の重要性について多数の講演、指導を行っている。また最近ではプレゼングループワーク指導を取り入れプレゼンテーション技術を自ら学ぶために problem based learning: PBL を行い自ら feedback することにより技術を高める取り組みを行っている。